

2022年7月25日

株式会社日立製作所東北支社

令和4年度青森ねぶた祭において、 太陽光由来のエネルギーを活用した脱炭素ねぶたを出陣

株式会社日立製作所東北支社(以下、日立)は、令和4年度青森ねぶた祭^{*1}において、太陽光由来のエネルギーを活用した、蓄電池搭載の脱炭素ねぶたを初めて運行します。

日立連合ねぶた委員会は、運行前に太陽光パネルで蓄電池^{*2}を充電し、ねぶた本体に搭載することで、ねぶたのライトアップ用電源として使用します。これにより、従来、祭の期間中にねぶた本体が排出していたCO₂排出量を削減することができます^{*3}。太陽光由来のエネルギーを活用した大型ねぶたが青森の夏の夜を照らすのは、長い歴史を持つ青森ねぶた祭において初の試みです。

日立は、世界の脱炭素化をリードし、サステナブルな社会の実現に貢献することを目標に掲げています。青森ねぶた祭は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で今回3年ぶりの開催となりますが、日立は、感染対策を徹底した上で脱炭素ねぶたとして出陣し、今後も環境に配慮した取り組みと社会や地域コミュニティの活性化に向けた活動に取り組んでいきます。また、日立連合ねぶた委員会は新たな挑戦を続け、時代の変化に柔軟に適応することで、国の重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶた祭の末永い伝承とさらなる発展に貢献していきます。

*1 令和4年度青森ねぶた祭は、2022年8月2日(火)~7日(日)に本祭開催予定です。

*2 EcoFlow Technology Japan 株式会社製品を活用。

*3 従来の、ディーゼル発電機を使用する場合との比較。

万が一、悪天候等の事情により十分な充電が難しい場合は、通常のコンセントによる充電を行う可能性があります。

2019年度実績値から試算し、最大約170kgの削減。

■日立連合ねぶた Web サイト

<https://www.hitachi.co.jp/about/corporate/area/tohoku/nebuta/index.html>

■日立製作所について

日立は、データとテクノロジーでサステナブルな社会を実現する社会イノベーション事業を推進しています。金融・官公庁・自治体・通信向け IT サービスやお客さまの DX を支援する「デジタルシステム&サービス」、エネルギーや鉄道で脱炭素社会の実現に貢献する「グリーンエナジー&モビリティ」、産業流通、水インフラ、ヘルスケア、家電・空調システム、計測分析システム、ビルシステムなどの幅広い領域でプロダクトをデジタルでつなぐ「コネクティブインダストリーズ」と、自動車・二輪車の分野で先進技術を提供する「オートモティブシステム」の事業体制のもと、IT や OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用する Lumada ソリューションを通じてお客さまや社会の課題を解決します。グリーン、デジタル、イノベーションを原動力に、お客さまとの協創で成長をめざします。2021年度(2022年3月期)の連結売上収益は10兆2,646億円、2022年3月末時点で連結子会社は853社、全世界で約37万人の従業員を擁しています。

詳しくは、日立のウェブサイト(<https://www.hitachi.co.jp/>)をご覧ください。

以上